

第6回伝統文化振興賞

ENVISI

宮城県仙台市

ENVISI



ENVISI (エンビジ) は、アーティスティックな力でコミュニティの再生力を高めるために活動するアート系まちづくり団体である。アートプロデューサーの吉川由美とアーティスト、市民有志が中心となり、各地の人々とともにアートプロジェクトを通して、まちの目に見えない価値を見出し、人と人との間に見えない絆をつなぎ、新たな活力を生み出すことを目的に活動している。

団体名は、「想像する・思いを巡らす」という意味の ENVISION (エンビジョン) から命名した。地域毎の固有の伝統、生活文化、風習、生業などに目を向け、そこに潜む唯一無二の価値を、住民自らが再発見する機会をつくり出し、それを大切に思いながら、未来を創る新たな力に変換していくためのプロジェクトを宮城県内各地で展開してきた。その活動を“生きる博覧会”と名付け、2009年鳴子温泉郷、2010年南三陸町でアートプロジェクトを開催した。

南三陸町で2010年から行っているのは、きりこプロジェクト。宮城県北部では、正月になると多くの家の神棚に、切り紙が飾られる。特に沿岸部の南三陸町では、神社毎に宮司たちが連綿と美しい切り紙の伝統を継承してきた。漁業を生業とするこの地域では、投網に魚・扇などの縁起物を一枚の半紙から切り透かす複雑な意匠の御幣やお神酒・巾着などの縁起物を切り透かす、通称「きりこ」が民家の神棚を彩ってきた。

南三陸町の女性有志とともに、活気を失いつつあった中心市街地の歴史や人々のエピソードを掘り起こして、街を回遊する楽しみを創出しようと、南三陸町志津川地区の目抜き通りの店や家を訪ね、それぞれの宝物や思い出、歴史を取材。「きりこ」の意匠の美しさに着目し、その様式を模倣。家々の物語を表した絵柄を切り透かして「物語きりこ」を作り、約650枚を軒先に飾り付けた。これまでは見えなかった家々の物語が可視化された。また、自らの生活の中に生きて来た「きりこ」の美しさを再発見することにもなった。

2011年3月11日、東日本大震災で南三陸町の町が流失。2010年にプロジェクトで関わった地区は跡形もなく失われた。しかし、すべてを失った人々の心には記憶という宝物が生きている。アイデンティティを失うことなく、魂のこもった唯一無二の南三陸町を再生することができるように、ENVISIは町の人々とともに、「きりこプロジェクト」を継続している。



ENVISI has been engaged in various art projects in Minamisanriku to revitalize the community since 2010. The most notable event was the “kiriko” exhibit, which came about in collaboration with local residents. Kiriko is a paper-cutting craft that applies unique techniques and designs that are passed down as a tradition in local shrines. In the exhibit, kiriko artwork was displayed in front of shops and houses on the main street that stretches out from the train station. The project inspired local residents and helped them appreciate what their community could offer. Their activities came to have even more significance after Minamisanriku was hit by the devastating earthquake and tsunami in March 2011. As one of the hardest-hit areas, the town lost 70 percent of its buildings and many of its residents. ENVISI resumed its work soon after the disaster, first by distributing food and other emergency supplies.

Today the group is engaged in various art projects to support the people of Minamisanriku. One such project is another kiriko exhibit, in which artists interview local residents about their memories, experiences, and hopes, and design kiriko to tell their stories. The organization is also engaged in children’s projects, working with local schools and hosting workshops in which children create their own songs to tell their stories.



見えないものを見つめ続ける

ENVISI

代表 吉川由美

青空をバックに白い切り紙が軒先に揺れていた2010年の夏の風景が、私たちの脳裏に焼き付いています。650枚の「きりこ」を飾った家々に、それぞれの暮らしや歴史がありました。その町のすべては、無残にも一瞬のうちに失われました。それは、精神文化やアイデンティティの危機でもありました。

私たちは、人々の心の中に生きている記憶、誇り、アイデンティティを支えるべく、大切な人や家財を失いながらも、復興のために懸命に生きる人々の姿を「きりこ」と短いメッセージの看板に表し、家々が流失した跡地に掲げたのです。宮司さんたちが連綿と時を超えて伝えてこられた神棚飾りの美しさに敬意を表しながら、笑顔を絶やすことなく力を合わせて困難を乗り越えようとする人々の姿を讃え、共有しようと思ったのです。

ティファニー財団賞受賞は、記憶や文化という目には見えないものこそ、被災地の復興に不可欠であることを、町のみなさんと確かめ合う機会をくれました。「魂」のこもった復興のあり方について、改めて本受賞は世に問いかけたのです。

生き生きとした地域を再生するには、見えないものを見出し続けることこそが重要です。忘れてはならないことに、多くの人々の目を向けさせてくれたこの受賞に、心から感謝申し上げます。

今年の夏も、私たちは町のみなさんとともに南三陸町の人々の姿を物語る「きりこ」を作り続けていきます。

